



Leaf

2005年9月1日
盛岡市三本柳6-1-1
盛岡赤十字病院
地域医療連携室
発行責任者 院長 利部 輝雄

盛岡赤十字病院医療連携だより No.7

当院は一般病院として届出をして2年になります。その間、地域の先生方のご協力をいただきながら、紹介患者と救急車の受け入れと病状の落ち着いた患者の逆紹介・戻し紹介を積極的に行ってきました。しかし、いまだに地域住民の病院志向は衰えることがなく、開業の先生の紹介状を持たずに来院するため、外来が大混雑しています。有限である医療資源を最大に生かすために、「地域完結医療」、診療所と病院の役割分担を患者様に知っていただく取り組みを始めることにしました。

推進します 「かかりつけ医を持ちましょう」

いま、日赤の様子は

盛岡赤十字病院は急性期病院

急性期病院の役割は急性疾患を入院治療すること、しかし当院の医師の人数は決して多くありません。夕方近くまで外来患者の診察に時間を割いて、検査をして、手術をして、入院患者を診るのは夕方になることがあります。これでは急性期病院の機能を十分発揮できません。

外来では診療予約時間についての苦情がいっぱい

診察予約制になっていても時間どおりにいかないことがあり、待ち時間が長くなることがあります。「重症1番、紹介2番」これは、当院の診療優先順位です。急性期患者様の診察を優先しているため予約時間にズレが生じることがあります。

いつも混んでいる外来

混んでいる理由は、迅速に診断・治療の必要な患者さんのほかに、病状の落ち着いた薬の処方だけでよい患者さんが来るから。また、プライマリケアをしてくれるかかりつけ医に行かないで直接病院に来るから。どこの科にかかったら良いのかわからなくて診療科を渡り歩く患者さんがいるからなど。いつも診てもらっているかかりつけの先生だとすぐに目星がつくのに、本当はかかりつけの先生のところまで治るのがほとんどで、もう少し精査が必要であれば紹介状を書いてもらって来れば早く診てもらえるのに。

主治医が転勤

病院の医師は、大学の医局人事などのため異動があります。主治医が転勤してしまって困ると言われてもこちらも困ってしまいます。あなたの主治医が開業医の場合は、ずっと主治医は変わりません。

「かかりつけ医」を持つとこんなにいいことが

自宅や職場に近い開業医の先生

かかりつけの先生も、みんな昔は病院の医師だったのです。当院では、病状のが落ち着いた患者様を、開業しているベテランの先生方の専門の診療科や得意分野に紹介します。

逆紹介は病院から見放された？

決してそのようなことはなく、当院医師からの診療情報提供書をかかりつけ医にお持ちいただき、普段の診察や薬の処方にかかりつけ医の先生に、検査や入院治療が必要になったときにはまたかかりつけ医の先生の診療情報提供書を持って来院してください。いわば、2人の主治医があなたの病気をフォローします。

病院に来るときは

診療情報提供書をお持ちにならない新患様には、初診時特定療養費1,580円を負担していただいております。

これらのことを、院内のポスターやチラシのほか、健康講演会や集会などの場で地域の皆さんに理解・支援してもらうよう取り組みを始めます。

研修医がんばってます

今年は5人の新人研修医を迎えました。医師免許取り立てで、医療行為ができるようになったばかり。覚えることがいっぱいですが、若さで一生懸命やっています。

指導医から 総合内科副部長 田村 悦子



私が大学を卒業した時は、岩手医大で研修医制度が始まって2年目の年でした。当時の教授に「これからは研修医をやらなきゃいかんよ。」と勧められ、研修医を選択しました。

当時、確立したカリキュラムなどなく、「え？研修医？で、どうすりゃいいの？」といった感じ。日赤での導入が決まった時は本当にやっていけるのかと不安を抱いたのを覚えています。実際にスタートして、指導医も研修医もお互いに模索する日々だったと思いますが、2年目の研修医を見ていると、1年目とは明らかに顔つきが変わり、医師としての自覚ができ、頼もしくさえ思えます。病院全体としても若い医師が増え、活気づいた気がします。専門科に限らず、オールラウンドに診れる医師を育成するという研修医制度は、病院にとっても新人医師にとっても互いに成長していく上で重要なのだと実感しています。短い期間に全てを

修得することは困難ですが、自身の経験からいえば、最大のメリットは横のつながりができることにあると思います。特に日赤規模の病院は、各科同士や地域医療の立場からも敷居が低く、より多くの先生方と接するチャンスです。これは将来専門科に進んでも、自分にとって貴重な財産となることはまちがいありません。研修医の先生方には、与えられるのを待つのではなく、自ら積極的に多くの現場を経験し、多くの医師、医療スタッフ、患者様達とコミュニケーションをとりながら充実した2年間にして欲しいと思います。

最後に私がおばさんになったせいでしょうか、研修医を受け入れて若い先生が増えますと「最近みんなこうなのかしら」と気になる点がいくつかあります。言葉使いや態度、時間厳守、あいさつなど、医師としてというよりも一社会人としての自覚をもって誰からも信頼される医師を目指してがんばって下さい。

盛岡赤十字病院卒後臨床研修プログラム概要

基本研修科目：内科6ヶ月、外科6ヶ月（うち麻酔科2ヶ月および救急含む） 必修科目：小児科3ヶ月、産婦人科3ヶ月、精神科1ヶ月、地域保健・医療2ヶ月 選択科目：当院の標榜科より1ヶ月ずつ3科目選択（うち病理部、放射線科を1ヶ月ずつ指定する。） 精神科1ヶ月は医療法人仁医会都南病院 地域保健・医療2ヶ月は医療法人社団帰厚堂南昌病院、医療法人友愛会盛岡友愛病院、国民健康保険葛巻病院から1病院を選択する。 献血事業に積極的に参加し、血液事業の重要性を認識する。



新任医師の自己紹介コーナー



産婦人科
副部長
塚原 みほ子

平成17年5月より勤務させて頂いています。平成11年に信州大学を卒業しました。その後、母校の産婦人科学教室に入局し大学院と長野県内の関連病院に勤務していました。昨年盛岡在住の夫と結婚し、このたびこちらにやってまいりました。微力ながら患者さんが安心して受診できる産婦人科医を目指して診療にあたりたいと思っています。皆様方にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、御指導の程よろしくお願いたします。



小児科
医師
千葉 睦実

平成17年5月から小児科に赴任いたしました千葉睦実です。現在岩手医大大学院の3年目で小児消化管に関する研究をしています。大学以外では県立久慈病院、宮古病院にそれぞれ4,5カ月ずつ勤務しましたが、今回盛岡赤十字病院は約1年と長めの勤務になります。

盛岡はもとより矢巾、紫波、花巻の先生方にお世話になることが多いと思いますが、どうぞ宜しくお願いします。

秋山 孝輝
あきやま こうき
出身:埼玉県越谷市
趣味:読書・映画
・釣り・スキー

盛岡赤十字病院で研修が始まって、早くも3ヶ月が過ぎました。当初は病院のシステムに慣れるのが精一杯でしたが、ようやく最近になり院内での動き方がわかってきました。

今は上級医、医療スタッフ、そして院外で地域医療連携として関わる諸先輩方の多くの方々から学ばなければならぬ事がたくさんあると実感しています。未熟者ですが今後とも宜しくお願い致します。

千田 光平
ちだ こうへい
出身:岩手県盛岡市
趣味:酒、スポーツ

秋田市に生まれ、小学校よりここ盛岡で暮らしてきました。第2の故郷でもある『岩手県』の医療に貢献すべく、当院で研修することを決意しました。将来は脳外科に進むことを希望しておりますが、この2年間は総合的な医療を学ぶことに重点を置いて研修したいと思っています。知識も技術もなく自分が足手まといになっているのを実感する日々であります。スタッフの皆様の厳しいお叱りと、やさしい慰めのおかげで充実した研修医生活を送っています。

自分の目指す全人的な医療に一步でも近づけるよう頑張りたいと思いますので、ご指導・ご鞭撻の程よろしく宜しくお願い致します。

佐々木 喜子
ささき よしこ
出身:岩手
趣味:読書

初めまして。この4月より日赤病院で研修生活をスタートしてから、早いものでもう3ヶ月たちました。

自分の未熟さを痛感する毎日ですが、先生方や周囲のスタッフの方々の温かいご指導のおかげで、なんとか頑張っています。将来的には整形外科希望ですが、この2年間はそういったことにこだわらず、内科や小児科、産婦人科などで自分の視野を広げられれば良いと思います。とくに深夜の当直などは、いろいろな患者さんが来るのですごく勉強になります。

2年間という限られた時間ですが、前向きに努力していきたいと思っておりますので、御指導の程宜しくお願い申し上げます。

山手 清令
やまて すみれ
出身:岩手県盛岡市

研修が始まり早3ヶ月が経ちましたが、日々失敗の連続で、悪戦苦闘の毎日を過ごしております。

この2年間では、医師として必要な知識・技術を学び、一人でも多くの患者様の助けとなれるような医師を目指して頑張りたいと思います。病院のスタッフの方々、患者様、またご家族の方にも大変ご迷惑をおかけするとは存じますが、御指導の程、どうぞ宜しくお願い致します。

注:原稿は7月に書いてもらったものです。

佐藤 玲奈
さとう れいな

今春から研修医として勤務することになりました佐藤玲奈です。出身は北海道の札幌市です。旅行や美味しいものを食べるのが大好きです。大学時代は卓球部と茶道部に所属していました。

盛岡日赤病院はスタッフの方々がとても親しみやすく、明るい雰囲気とても有意義な研修医生活を送らせていただいています。研修が始まり、あっという間に3ヶ月が過ぎました。まだ不馴れなことも多くご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、ご指導どうぞよろしくお願い致します。



2年次の研修医も 元気です

加藤陽一郎、加藤久仁之、小野寺美緒の3名の研修医は、指導医の元で毎日鍛えられ、見た目もたくましくなってきました。間もなく地域保健・医療に登場しますのでよろしくお祈りします。

改訂版「診療案内」

前回発行後1年がたち、医師の交替もありましたので改訂版を発行いたしました。患者様の紹介の際にご活用ください。



連携室からのお知らせ



9月1日付で 第一外科部長 旭 博史医師が着任いたしました。

入院患者様のプライバシーの尊重のために当院では

1. 電話による入院や病室の問い合わせにはお答えしません。
2. 入院の事実を知っていて来院のうえ病室の問い合わせがあった場合は、患者様からの「面会お断り依頼書」提出の有無を確認してから病棟をお知らせします。(面会を希望しない患者様には「面会お断り依頼書」を記入いただいています。)

「面会お断り」でもオレは知り合いだから会うはずだとか、なんで電話では教えないんだと食い下がる方もいますが、個人情報保護の時代です。どうかご理解を。